

■12月6日

カンタス航空、上期に最高3億豪ドル損失見通し、経営合理化案発表

のカンタス・グループは5日、1000人以上の人員削減を含む20億豪ドル(約1860億円)相当の経営合理化策を発表した。同社の監督当局への届け出によると、燃料コスト高とチケット価格下落の中で、同社は上期に一部項目を除く税引き前で2億5000万—3億豪ドルの損失を計上する見通し。

日経によると、アラン・ジョイス最高経営責任者(CEO)は、豪格安航空会社(LCC)ヴァージン・オーストラリアに外国政府の資本が注入されているとして「競争環境が公平でない」と批判した。

(日経)12/5

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM05033_V01C13A2FF2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM05033_V01C13A2FF2000/)

(ロイター)12/5

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MXB4IU6K50YK01.html> (-> [http://www.bloomberg.co.jp/news/123-](http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MXB4IU6K50YK01.html)

[MXB4IU6K50YK01.html](http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MXB4IU6K50YK01.html))

海南航空、北京—ボストン線、ボーイング787で来年6月20日就航

海南航空は4日、来年6月20日からの北京—ボストン便の就航について規制当局の承認を確保したことを明らかにした。使用機材はボーイングの787型機。同社は現在北京—シアトル線、北京—シカゴ線を運航している。

WSJによると、中国政府は、各路線に国内航空会社1社のみを割り当てるとの方針により、これまで海南航空の国際線の拡充も限られていた。輸送旅客数で中国4位の海南航空の幹部はフラッグキャリアである中国国際航空は、中国航空業界の幅広い規制緩和の結果、一部の国際線における独占状態を1年以内に失う可能性がある」と指摘した。

また、海南航空は、北京と米ニュージャージー州ニューアーク・リバティ空港を結ぶ便の来年開設を目指し、中国航空当局の承認を求めている。

(WSJ)12/5 12/6

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304906204579238890416424818.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304906204579238890416424818.html>)

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304906204579240621073361990.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304906204579240621073361990.html>)

エアアジアX(LCC)、第3四半期、利用者数、前年同期比32.4%増、最終利益45.9%減

(産経bizによると)

マレーシア最大手でアジア最大の格安航空会社(LCC)エアアジアの長距離国際線部門、エアアジアXは、客足が好調で売り上げを伸ばす一方、燃料価格の高騰などで利益が減少している。現地英字紙スターが報じた。

同社によると、今年第3四半期(7~9月期)の売上高は前年同期比23.6%増の6億150万リンギット(約191億円)、最終利益は同45.9%減の2640万リンギットだった。1~9月の売上高は同13.9%増の16億2700万リンギット。

7~9月期の売り上げ増の要因は客数の増加で、前年同期比32.4%増の80万人だった。機材を9機から14機に増やし、輸送能力が大幅に向上したことが貢献した形だ。また、マレーシアの首都クアラルンプールと韓国の釜山やモルディブのマレなどを結ぶ新規路線の就航も客数増加につながった。

その一方で、機材や路線の増加は経費の増大にもつながる。7~9月期の燃料費は前年同期比36.5%増の2億9110万リンギット、整備などの費用も同10.1%増の1億1540万リンギット、人員補強にともなう人件費も同30.5%増の5780万リンギットとなり、利益を圧迫した。

一般に、長距離国際線は搭乗時間が長く、燃料費もかかるため、LCCよりも従来通りのサービスを行う航空会社が有利とされる。しかし、エアアジアXのオスマンラニ最高経営責任者は「長距離LCC分野で世界をリードする地位を築くと

「エアアジアの成長戦略実行に集中するだけだ」と述べ、今後も拡大路線を貫く姿勢を示した。

エアアジアXは来年3月には羽田空港、関西国際空港に続いて中部国際空港にも乗り入れを開始する予定だ。

(産経biz)12/5

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131205/mcb1312050603024-n2.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131205/mcb1312050603024-n2.htm>)

キャセイパシフィック航空、平均4.5%の賃上げ

キャセイパシフィック航空は5日、香港ベースの9割以上の従業員に対し、来年は平均4.5%の賃上げを実施すると発表した。今年の賃上げ幅平均の2.25倍に当たる。また、賃金1カ月分に相当する年末ボーナスを今月支給する。

賃上げの対象は所定の条件を満たす客室乗務員と地上係員。キャセイ航空は、職位が高い従業員ほど賃上げ率も高くなるよう設定したと説明している。

同社CAの労組、キャセイパシフィック航空客室乗務員労働組合(CPAFAU)は先月26日から、7.5%の賃上げや定年の延長(現行の55歳を65歳に)など4点を会社側に要求していた。

(NNA ASIA)12/6

<http://news.nna.jp/free/news/20131206hkd003A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131206hkd003A.html>)